

国際ロータリー2620地区

御殿場ロータリークラブ



週報

http://www.gotemba-rc.gr.jp/

御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

第2315回 例会プログラム

- 例 会 場／名鉄菜館
- 開 会 点 鐘／12:30
- ロータリーソング／奉仕の理想
- 内 容／防衛講話
陸上自衛隊 富士学校長・陸将 武内誠一様

会 員 慶 事

- 会員誕生日／2月23日 山口幸男君
2月26日 稲葉博之君
- 夫人誕生日／2月20日 望月 茂君 御夫人 奈保美様
2月23日 勝又重春君 御夫人 佳代子様
- 皆 出 席／2月15日 長田富夫君（4年）

会 長 挨 拶

勝又 敏雄



こんにちは。

本日は、御殿場市勝又教育長には年度末に向けて何かとお忙しい中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。

また、御殿場RCが行っております「未来への手紙」事業にご理解を賜り、重ねて御礼申し上げます。

さて、8日と9日は静岡において地区大会が行われました。8日（土）は深夜から降り始めた雪が20センチ位積もっている中を10時半頃静岡に向かいましたが、富士のあたりでもうっすらと雪が積もっており、大変驚きました。

1日目の本会議では審議が行われるため、クラブの会員数による議決権者の席は決められておりますが、山梨県の議決権者の席には5名しかいない中で始まりました。当日、山梨県の交通機関は中央道と東富士五湖道路が通行止めで、JRの中央線と身延線は不通となっており、静岡に向かうことが出来なかったかと存じます。そのため、野口ガバナーノミニーは夕方到着いたしました。大会決議委員長の飯田パストガバナーは来ることが出来ませんでした。御殿場からは、勝又重春研修リーダーと橋本幹事と私の3人で参加致しましたが、地区青少年交換委員の勝又厚君は午前中から来ており、第2部のフォーラムの準備で頑張っておりました。そして第3部のフォーラムでは地区委員会の活動報告が行われました。第4部のRⅠ会長代理歓迎晩餐会は、帰りの交通情報を確認しながら参加し、終了間際に帰路に着き、富士インターで降りて一般道をあちこち迂回しながら帰ってまいりました。

2日目はチャーターバスで8時に御殿場駅乙女口を出発いたしました。家から車を出せずに参加出来ないメンバーが多数おり、悪天候のためとはいえ大変申し訳なかったかと存じます。今年の地区大会のRⅠ会長代理はRⅠ3460地区パストガバナーの劉昭恵女史（台湾・台中中央RC）で、所属クラブ（女性だけのクラブ）から8名のロータリアンが参加されました。2日目の第3部はRⅠ田中作次前会長（八潮RC）の記念講演があり、大変有意義な大会であったかと存じます。

参加いただいた方々には大変ありがとうございました。

会長挨拶用
QRコード

2/13の出席報告

※やむを得ず欠席される方は、午前10時までにご連絡下さい。

会員数	出席計算に 用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の 確定出席率
60名	59名	52名	88.14%	100%

欠席者
(7名)勝間田太住君・芹澤正明君・嶋田泉太郎君
高村繁男君・内海宣彦君・若林洋平君・山内強嗣君

1/30のメーキャップ

1月17日	せせらぎ三島RC	勝又	洋君
1月29日	長 泉 R C	望月	茂君
1月29日	長 泉 R C	渋谷	一君
2月 3日	甲 斐 R C	大和田浩二君	
2月 7日	せせらぎ三島RC	井上	元君
2月10日	小 田 原 R C	秋田	敬君



Engage Rotary Change Lives

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

次 回
2月27日の
例 会

★YMCA東山荘 ★12:30点鐘

★レーシングカーに命をかけて
元レーシングドライバー
関谷正徳様

御殿場市の教育現状について



御殿場市教育長

勝又 将雄 様

日ごろより、子どもたちの教育のために、色々な形でご支援いただいていますこと、まずもって感謝申し上げます。

御殿場市の学校教育課グランドデザインに、「特に〈人間性〉×〈社会性〉の育成に力点を置いて進める」の言葉を盛り込みました。折々に伝えている、「子どもたちに求められる確かな学力と、〈人間力〉〈社会力〉を身につけさせて、社会へと自信を持って送り出したい」に対応しています。

「教育の要は授業である」ことを最前提として、確かな学力の定着は当然のことではありますが、人として、社会の一員として身につけておきたい「力」の育成を強く意識します。ゆえに、「真の教育は、何よりも先ず教師自身が、自己の心眼を立てることから始まる」を念頭に、日々の教育活動に子どもの成長のイメージを持ち、学級経営を実践推進する確かな展望を持ちたいと思います。

「ありがとう」の反対語は「当たり前」

キャリア教育の推進にあたり、〈人と出会い 自分を見つめ 社会に生きる〉というキーワードで、たくさんの「本物の大人」である方々を招へいしました。「本物の大人」というのは、単なる著名人ではありません。学歴、年齢、性別に関係なく、仕事に誇りを持ち、生き方にその方らしいものがあると世間でも認められる人です。そういう方々を、出前講座、講演会といういろんな形で、毎月お一人ずつ学校へとおいでいただきました。「掃除道」の鍵山秀三郎さん、「江戸しぐさ」の越川禮子さん、「自己表現・パントマイム」の山田とうしさん、「紙切り絵作家」の水口千令さん、「プリズンコンサート」のぺぺさん等々、学校、子どもに応じた特色ある方々の登場となっています。

人は社会に生きています。いろんな人と出会い、いろんな出来事と遭遇して自分を成長させています。家

族生活が基盤となっている日常生活であるがゆえに、社会生活として組織的な「タテ」「ヨコ」の関係をもつことが多いわけですが、だからこそ「ナナメ」の関係を構築していかない限り健全なる成長が望めないという指摘にも耳を傾けざるを得ません。当市においては、こうした学校での経験が地域社会での行事への参加に結びついて、家族で参加しましたという話をあちらこちらで耳にします。当然逆の体験もあろうと思いますが、まさに、「生きる力」をはぐくむ「人とのかわり」「社会に参加する喜び」を実践している現在進行形の子どもの姿です。

「馬の涙」が見える人になってほしい

脚本家の倉本聰さんが住んでいた北海道の友達の話です。

北海道では、かつて農業に活躍した馬がたくさんいました。しかし、その馬は、トラクターの導入で急速にその役目を失っていきました。飼い主の名はヒラさんといいます。ヒラさん一家は、長年連れ添って老いた馬を手放す気にはなれずに、年月が経っていました。その馬を家族の一員として深く愛していたからです。しかし、その馬は随分と年をとってしまいました。そして、愛する馬の死を見るに忍びないという家族の意見で、馬はとうとう売られることになったのです。

馬を手放すその前日に、家族は馬にご馳走をし、そのご馳走が馬に何かを悟らせた。翌朝、トラックが馬を迎えに来、主が馬を馬屋から引き出すと、突然馬はしきい口で止まり、主の方に頬をすり寄せた。家族はハッとしたそうである。馬が涙を流していた。大粒の涙を流していたのだという。… ヒラさん一家は全員胸つかれて動けなかった。と、突然馬は自ら動きだし、もう後ろは見ず、踏み板を渡ってトラックの荷台へと上って行ったという。……倉本さんは友達のヒラさん一家の話をこう書きつつ、「この話に僕は胸を突かれる。馬と、人間と、双方にである。」と、文を閉じます。

馬が泣くなんておかしい、信じられないという人がいるかもしれませんが、しかし、ヒラさん一家には確かに馬の涙が見えたのです。馬の悲しみが伝わってきたのです。子どもたちにはそういう人間になってほしいと願います。まさに、御殿場市の人づくり精神です。

本日は、お招きいただき、お話しする機会を与えられましたこと、誠にありがとうございました。

2/13のスマイル

- ・2月8日から全国放送されている内閣府の税に関するCMで、自社の工場は2～3秒出ています。渋谷 一君



司会
井口俊靖君



出席報告
池谷正徳君



ソングリーダー
秋田悦夫君



第2620地区

御殿場ロータリークラブ

○例会日/木曜日
○例会場・事務局/YMCA 東山荘
静岡県御殿場市東山1052
電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138
<http://www.gotemba-rc.gr.jp/>

会 長○勝又 敏雄
幹 事○橋本 喜市
会報委員長○渡辺 修司